令和７年度
第２学年

授業シラバス
年間指導計画

国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、
技術家庭（技術分野・家庭分野）、英語

道徳、サイエンス

教　科　名	年間授業時数	学　年
国語	１７５	2

授　業　形　態	指　導　者　名
一斉授業	景山　真基子・永幡　紗彩子

教科書（発行所）	中学校国語２（東京書籍）・中学校書写（学校図書）
教科書以外の教材（発行所）	中学必修テキスト２　（文理） 単元別漢字２　（秀学社） ウイニングPLUS中学校問題集国語２　（好学出版） 楽しく学べる文法ノート　（新学社） 意味から学ぶ頻出漢字３０００　（第一学習社） 国語便覧　（浜島書店）

目　　標	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。		
学習のねらい	○知識及び技能 ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。 ○思考力、判断力、表現力等 ・「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の学習を通して、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ○学びに向かう力、人間性等 ・言葉がもつ価値を認識するとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。		
定期考査	出題方針	教科書・授業の内容と文法ノートの問題を中心に出題する。	
	範　囲（予定）	第２回考査	「未来へ」「あの夕暮れへ帰る」「短歌を楽しむ」「足跡」「同訓異字」「敬語」「漢字の意味」「ネコだって推理できる」「類義語・対義語・多義語」「枕草子」
		第３回考査	「字のない葉書」「黄金の扇風機」「サハラ砂漠の茶会」「徒然草」「同音異義語」
		第４回考査	「落葉松」「平家物語」「落葉松」「『正しい』言葉は信じられるか」「紛らわしい漢字」「他教科で学ぶ漢字（１）」
		年度末考査	「走れメロス」「他教科で学ぶ漢字（２）」「坊っちゃん」「漢詩」「カメレオン」「私が一番きれいだったとき」
評価の観点・評価の方法	○評価の観点は国語の「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、提出した課題の内容などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス（予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	毎日の漢字テストに粘り強く取り組み、言葉の力の基礎を身に付けていきましょう。予習で教科書を読み、わからない語句や難しい表現をチェックし、辞書などで確かめ、ノートに整理してみましょう。また、各教材末に置かれている「てびき」や授業中に配付されるプリントの問題を考えてみましょう。授業中の要点・板書事項をノートに書き写すだけではなく、授業中の他の仲間の発言にも注意して、ノートに残すようにすると、自分の考えを広げることができます。 復習として、その日のうちに再度、教科書やノートを確かめ、メモなどの走り書きをきちんと整理しておくと、授業の内容を定着させることができます。古典分野では、覚えなければならない学習事項が多いので、予習・復習を丁寧におこないましょう。 なお、課題として配付している問題集は、解答の根拠となる箇所に線を引くなど見える化し、答え合わせの際には解説をよく読み込み、理解を深めることを大切にしましょう。		

年　間　授　業　計　画　表（４５分授業）

学期	月	学　習　内　容	時数	学習のポイント
前期	4	「未来へ」	2	・詩に描かれていることを解釈し、読み方を工夫して音読する。
		「あの夕暮れへ帰る」	2	・読み取ったことを踏まえ、知識や体験も交えて、考えを広げる。
		「短歌を楽しむ／短歌五首」	2	・短歌に詠まれた情景や心情を想像し、短歌を読み味わう。
	5	「短歌の創作」（書）	2	・自然や体験を題材に、表現を練りあげて短歌を作る。
		「ディベート」（話・聞）	8	・多様な立場や意見を想定しながら話し合う。
		「同訓異字」	1	・同訓異字について理解し、話や文章の中で使う。
		「足跡」（読む）	4	・全体と部分との関係に注意しながら人物の設定の仕方を考える。
		「枕草子・徒然草」	6	・古典に表れた筆者のものの見方や考え方を知る。
		「異なる考えの聞き方」（聞）	1	・相手の考えを検討しながら、自分の考えを深める。
	6	◎「行書と仮名を書こう」（硬筆）	4	・楷書と仮名の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。
		「意見と根拠の聞き方」（聞）	1	・話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。
		「敬語」	2	・敬語の働きや使い方について理解する。
		「漢字の意味」	1	・漢字の意味を理解して、漢字を文や文章の中で使う。
		「ネコだって推理できる」（読む）	4	・文章と図表を結び付け、関係を踏まえて内容を解釈する。
	7	「情報の関係の表し方」	1	・情報と情報の関係のさまざまな表し方を理解し、情報を整理する。
		「地域の魅力」の紹介文（書）	8	・身近な地域の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする。
		「類義語・対義語・多義語」	1	・類義語と対義語、多義語について理解する。
		「インターネット・新聞の活用／鰹節―世界に誇る伝統食」（読む）	3	・複数の情報を整理して内容を解釈する。
	9	《第２回考査》		
		◎「行書と仮名を書こう」（毛筆）	4	・行書と仮名の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。
		「字のない葉書」（読む）	3	・登場人物の言動の意味について考えて、作品を読み深める。
		「人物像」	1	・登場人物の言動の意味に着目して、人物像を捉える。
		「依頼状とお礼状」	3	・読み手の立場に立って、適切な表現になるように文章を整える。
		「熟語の構成・熟字訓」	1	・熟語の構成や熟字訓について理解する。
		「黄金の扇風機」「サハラ砂漠の茶会」	5	・観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や論理の展開、表現の工夫について考える。
		「意見と根拠の吟味」	1	・意見と根拠の関係について理解し、意見と根拠を吟味する。
		「『地図』の意見文」（書）	6	・根拠の適切さについて吟味し、自分の意見が伝わる文章を書く。
		「同音異義語」	1	・同音異義語について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
		《第３回考査》		
後期	10	「落葉松」	1	・詩に描かれた情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。
		「平家物語」	4	・表現の特徴を生かして朗読し、古典の世界に親しむ。
		「話し言葉と書き言葉」	1	・話し言葉と書き言葉の特徴について理解する。
		「紛らわしい漢字」	1	・形や音の似た、紛らわしい漢字に注意して、漢字を文や文章の中で使う。
	11	「『正しい』言葉は信じられるか」	5	・構成や表現を工夫して、記事を書き換える。
		「具体と抽象」	1	・具体と抽象の関係について理解する。
		「プレゼンテーション―説得力のある提案をしよう」	6	・自分の考えを明確にして、説得力のある話の構成を考える。 ・人物像を捉え、人物の言動について考えながら、作品を読み深める。
		「他教科で学ぶ漢字（１）」	1	・他教科で学ぶ語句に用いられる漢字について理解し、漢字を文章の中で使う。
	12	「メディアの垣根を越えて／ビブリオバトル」	4	・さまざまな種類の本やメディアの作品に触れ、読書が自分の考えを広げたり深めたりすることを理解する。
		《第４回考査》		
		◎「行書と仮名を書こう」（毛筆）	4	・見聞きしたことや体験したことをもとに、表現を工夫して随筆を書く。
	1	「走れメロス」	6	・行書の特徴、筆づかいについて理解し、文字の大きさ、配列等に注意して書く。
		「他教科で学ぶ漢字⑵」	1	・登場人物の言動の意味について考えて、作品を読み深める。
		「わたしが一番きれいだったとき」	2	・他教科で学ぶ語句に用いられる漢字について理解する。
	2	「地球環境と人間社会」	2	・人物の心情に注意して、詩に込められた思いを考える。
		「小学校六年の漢字」	1	・根拠の適切さを考えて自分の考えが伝わる文章になるよう工夫する。
		「坊ちゃん」	2	・小学校六年の漢字を書き、文や文章の中で使う。
		○百人一首	3	・登場人物の行動や人柄、考え方について考えを深める。・百人一首を通して、伝統文化を尊重する。
		「漢詩」	7	
		「カメレオン」	4	・表現の特徴に注意して朗読し、漢詩を味わう。
		《年度末考査》		・登場人物の言葉や行動を考えて、作品を味わう。
	3	「スズメは本当に減っているのか」	2	・文章と図表を結べ付けて読み、図表の役割を考える。
通年		演習	39	「文法ノート」の解説を読み、品詞やその活用等について学習する。
		総時間数	175	

教　科　名	年間授業時数	学　年
社会科	１３７	2

授 業 形 態	指 導 者 名
前期：一斉授業　後期：一斉授業	長谷川禅

教科書（発行所）	中学生の地理/地図帳（帝国書院）新しい社会歴史（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	実力練成テキスト地理　（文理）地理ワーク（学宝社） 実力練成テキスト歴史　（文理）歴史ワーク（学宝社）　他

目　　標	・世界の姿、日本の姿をみるのに必要な地理的事象を理解する。また、地図、資料の活用ができる技能を磨く。 ・地理的な見方や考え方の基礎を培いつつ、身近な地域や都道府県、日本の諸地域などを多面的・多角的に捉える力を養う。 ・歴史的事象の学習を通して、時代を大きく捉える見方・考え方を身に付ける。また、各時代の政治のしくみ、人々の生活、文化を様々な角度から捉えられる力を養う。 ・自ら課題を設定し、自ら調べ、課題を解決していく力を身に付ける。		
学習のねらい	（地理的分野） ・地球儀や地図を活用して、世界的視野からみた国土の位置と領域に関する特色を多面的・多角的に追究できる。 ・日本地図を活用して、47 都道府県の位置と名称や日本の地域区分を捉えることができる。 ・都道府県の地域調査を始めるにあたって、県を調べる際の地域調査の一般的な方法や手順を理解する。 ・市町村規模の地域や都道府県規模の地域の調査と比較しながら、国家規模の地域を調査する際の一般的な方法を身に付ける。 ・わが国の地域的特色を「自然環境」「人口」「地域間の結びつき」「生活・文化」「資源・産業」の５つの面から考察し、わが国がかかえる社会的課題を理解する。 ・世界的視野からみた日本の地域的特色と日本全体の視野からみた諸地域の特色を考察する。 （歴史的分野） ・中世から近世までの大きな時代の流れを捉えさせ、それぞれの時代の特色を多面的・多角的にとらえることができる力を培う。 ・各時代の歴史的事象を説明することができ、その際適切に資料が活用できる力を身に付ける。 ・特に近世から近代の日本の歴史を、世界の歴史的変化と並行し、連動して捉えることができる柔軟性を養う。 ・歴史的事象の中から、地理的な内容とも関連させながら課題を設けて調べることができる力を養う。またその課題を解決できる力を身に付ける。		
定 期 考 査	出題方針	授業で学習した内容、使用している副教材の内容から出題する。資料を用いて考え、自分の言葉で表現する力を多く問う。	
		第２回考査	・近世の日本①，②　・日本の地域構成
		第３回考査	・世界と比べた日本の地域的特色　・日本の諸地域①
		第４回考査	・近代の日本と世界①
		年度末考査	・日本の諸地域②　・近代の日本と世界②
評価の観点・評価の方法	①　知識・技能 ②　思考・判断・表現 ③　主体的に学習に取り組む態度 上記３項目について、授業への取組（ノート・発表等の内容）、自主学習、レポート、単元テスト、定期考査の結果で総合的に評価する。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	様々な出来事や課題を図や資料、グラフなどから考え、理解していく力をつけていきましょう。また、知識の定着だけではなく、自分の言葉で説明できる力や問題に何度も挑戦する力を付けていきましょう。		

年　間　授　業　計　画　表　（４５分授業）

学期	月	学　習　内　容	時数	学習のポイント
前期	4	（ii）日本の様々な地域 ア　日本の地域構成	20	・地形 ・気候 ・災害 ・自然環境 ・人口 ・資源とエネルギーおよび産業 ・林業・農業・漁業
	5	近世の日本① ＊世界史内容の補足	12	・ヨーロッパ人来航の背景とその影響 ・織豊政権と統一事業、対外関係 ・イスラム世界と文化 ※ここまでの世界史の流れをとらえる ・世界の歴史のできごとを日本の歴史と対比させ、世界の中での日本が説明できるようになる。
	6	近世の日本②	20	・ヨーロッパ人の来航と日本への影響 ・江戸幕府の成立と大名統制 ・鎖国政策 ・江戸幕府の政治の特色 ・元禄文化・化政文化 ・新しい学問や思想の動き
	7	《第２回考査》		
	9	イ　世界と比べた日本の地域的特色	18	・地形図 ・工業とその変化 ・商業・サービス業 ・交通網・通信網 ・さまざまな地域区分
後期	10	ウ　日本の諸地域①	14	・九州・中国・四国・近畿 ※地域的な特色ある地理的事象と事柄を他の事象と結びつけて追究する。
		《第３回考査》		
	11	近代の日本と世界 ＊世界史内容の補足	21	・絶対王政と市民革命 ※ここまでの世界史の流れをとらえる ・世界の歴史のできごとを日本の歴史のと対比させ、世界の中での日本が説明できるようになる。
	12	《第４回考査》	12	・欧米諸国の接近と幕府の政治改革 ・産業革命 ・アジアの動き ・幕府政治の行き詰まり ・開国から大政奉還まで ※ここまでの世界史の流れをとらえる ・１８世紀から１９世紀の世界の変化を日本の歴史と対比させ、世界の中での日本が説明できるようになる ・明治維新の改革 ・文明開化
	1	ウ　日本の諸地域②	9	・中部・関東・東北・北海道 ※地域的の特色ある地理的事象と事柄を他の事象と結びつけて追求する
	2	エ　身近な地域の調査 《年度末考査》	11	・地形図・野外観察 ・調査・地域の課題を考察 ・まとめと発表
	3	適切な課題を設定する学習		
		総　時　間　数	137	

教　科　名	年間授業時数	学　年
数　学	１９５	２

授 業 形 態	指 導 者 名
習熟度別による少人数授業	金谷久美子、松本拓磨

教科書（発行所）	新しい数学２	（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	体系数学２代数編 体系数学１・２幾何編 体系問題集数学２代数編　発展　完成ノート 体系問題集数学１・２幾何編　発展　完成ノート	（数研出版） （数研出版） （数研出版） （数研出版）

目　　標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。		
学習のねらい	1「数と式」領域 ・文字を用いた多項式について、式の展開や因数分解ができるようにするとともに目的に応じて式を変形したりその意味を読み取ったりする能力を伸ばす。 ・正の数の平方根について理解し、それを用いて表現し考察することができるようにする。 ・２次方程式について理解し、それを用いて考察することができるようにする。 2「図形」領域 ・観察、操作や実験などの活動を通して、基本的な平面図形の性質を見いだして理解し、それを用いて考察することができるようにする。 ・図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ、論理的に考察し表現する能力を伸ばす。 ・図形の性質を三角形の相似条件を基にして確かめ、論理的に考察し表現する能力を伸ばす。 3「関数」領域 ・具体的な事象の中から２つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、関数$y=ax^2$について理解するとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を伸ばす。 4「資料の活用」領域 ・目的に応じて資料を収集し、表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目して、その資料の傾向を読み取ることができるようにする。 ・不確定な事象についての観察や実験などの活動を通して、確率について理解しそれを用いて考察し表現することができるようにする。 ・母集団から標本を取り出し、標本の傾向を調べることで、母集団の傾向が読み取れることを理解できるようにする。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容、問題集を中心に出題する。	
	範　囲 （予定）	２回考査	図形と合同、三角形と四角形
		３回考査	式の計算、平方根
		４回考査	２次方程式、関数$y=ax^2$
		年度末考査	確率と標本調査、図形と相似
評価の観点・評価の方法	評価の観点は「知識・理解」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３項目とする。 具体的な評価は、定期考査、授業への取り組み、章末テスト、小テスト、提出物の内容等の状況から総合的に行う。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	予習については、教科書の内容をあらかじめ見ておくだけでも違います。予習をして授業に臨むようにしましょう。復習については、問題集を中心にその日に習った内容の問題をできるだけたくさん解いて自分のものにしていきましょう。授業には、しっかり集中して臨み、わからないことはその場で先生に質問するか、休み時間・放課後等を利用して質問にくることで、その日のうちに理解するように心がけましょう。授業ノートや授業プリントについては、黒板を写すだけでなく、自分で気づいたことや先生が説明した内容で重要だと思ったことは自分の言葉でしっかりと書き込んでおいて、後から確認して分かりやすいように工夫してみましょう。		

年 間 授 業 計 画 表（４５分授業）

期	月	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前期	4	平行線と角	4	・対頂角の性質、平行線と角の関係について理解し、それらを利用して問題を解決することができるようにする。
		多角形の内角と外角	7	
		三角形の合同条件	7	・三角形の内角と外角をもとに多角形の角について理解し、問題の解決に利用することができるようにする。
		証明のすすめ方	7	
	5	章末問題	3	・合同な図形の性質、三角形の合同条件などを明らかにし、三角形の合同を根拠とした証明を行うことができるようにする。
		二等辺三角形	6	・三角形の合同条件を使って、二等辺三角形の性質を証明し、図形の性質を理解することができるようにする。
		直角三角形の合同	4	
		三角形の辺と角の大小	4	・直角三角形の合同条件を明らかにし、直角三角形の合同を根拠とした証明を行うことができるようにする。
	6	平行四辺形	7	
		平行線と面積	4	・三角形の辺と角の大小について理解し、それらを利用して問題を解決することができるようにする。
		章末問題	3	
				・平行四辺形の性質や平行四辺形になるための条件、他の四角形の性質、平行線による等積変形などについて理解し、それらを利用して問題を解決することができるようにする。
		多項式の計算	8	・多項式と単項式の乗除ができ、また、乗法公式を用いて式の展開ができるようにする。
	7	≪２回考査≫		
		因数分解	6	・乗法公式を用いて式の因数分解ができるようにする。
		式の計算の利用	4	・式の展開や因数分解を利用して、問題を解決することができるようにする。
		素因数分解	2	
	8	章末問題	3	・数の素因数分解ができるようにする。
		平方根	5	・数の平方根の意味を理解し、その大小や近似値を求めることができるようにする。
		根号を含む式の計算	8	
	9	有理数と無理数	2	・根号を含む式の計算や変形ができるようにする。 ・有理数、無理数について理解し、数の概念をひろめることができるようにする。
後期	10	章末問題	3	
		≪３回考査≫		
		２次方程式の解き方	8	・２次方程式とその解の意味を理解し、平方根の考え、解の公式、因数分解などを利用して２次方程式を解くことができるようにする。
		２次方程式の応用	5	
		章末問題	2	・２次方程式を利用して、問題を解決することができるようにする。
				・関数 $y=ax^2$ としてとらえられるものがあることを知り、式に表すことができるようにする。
	11	関数ｙ＝ａｘ２	3	・関数 $y=ax^2$ について、そのグラフの特徴を理解し、あらわすことができるようにする。
		関数ｙ＝ａｘ２のグラフ	6	
		関数ｙ＝ａｘ２の値の変化	4	・関数 $y=ax^2$ のとる値の変化の割合を調べ、１次関数との違いを明らかにすることができるようにする。
		関数ｙ＝ａｘ２の応用	5	
		いろいろな関数	4	・関数 $y=ax^2$ を利用して、問題を解決することができるようにする。
	12	章末問題	3	・ある事象について、起こり得る場合を順序よく整理して調べることができるようにする。
		データの代表値	1	・ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向をとらえ説明することができる。
		データの散らばりと四分位範囲	2	
		場合の数	6	・箱ひげ図や四分位範囲の必要性と意味を理解することができる。
		確率の計算	7	・確率の意味を理解し、計算によって確率を求めることができるようにする。
		≪４回考査≫		
		標本調査	1	・標本調査について理解し、活用できるようにする。
		章末問題	3	
		相似な図形		・相似な図形の性質、三角形の相似条件などを明らかにし三角形の相似条件を根拠とした証明を行うことができるようにする。
	1	三角形の相似条件	4	
		平行線と線分の比	4	・平行線と線分の比の性質、中点連結定理について理解しそれらを利用して問題を解決することができるようにする。
		中点連結定理	5	
		相似な図形の面積比、体積比	4	
		章末問題	5	
	2	≪年度末考査≫	3	
		円周角の定理	4	・円周角の定理を理解し、それを利用して角の大きさを求めたり、図形の性質を考察したりすることができるようにする。
		円周角の定理の逆	3	
		円の接線	2	・円周角の定理の逆を利用して、4点が1つの円周上にあるかどうかを判断したり、図形の性質を考察したりすることができるようにする。
	3	方べきの定理	2	
		章末問題	2	・円周角の定理を利用して、円の接線に関する問題を解決することができるようにする。
				・方べきの定理を利用し、問題解決ができるようにする。
		総 時 間 数	195	

教　科　名	年間授業時数	学　年
理科	156	2

授 業 形 態	指 導 者 名
一斉授業	武下　晃慎

教科書（発行所）	未来へひろがるサイエンス ２（ 啓林館 ）
教科書以外の教材（発行所）	実力練成テキスト ２年

目　　標	自然の事物・現象にかかわり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のように育成する。 （１）自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。 （２）観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 （３）自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。		
学習のねらい	［生命］生物の体は細胞から成り立つことを理解させ、それを土台に動物の体のつくりとはたらき、その種類と生活についての知識を深めるとともに、生命の精妙さについて実感させることがねらいである。また、この中で生命尊重の態度も育てたい。 ［地球］身近な気象に進んでかかわり、空気中の水の凝結に関する実験や、気象観測などを雲画像などを活用して分析・解釈することを通じて、天気の変化が起こるしくみと規則性をもとに、日本の四季の天気変化についても、その特徴を科学的に理解させる。 ［物質］化学変化における物質の変化や量的な関係を、実験を通して探究させるとともに、それらの現象を原子・分子のモデルを用いて微視的に考えることができるようにさせる。また、多様な実験操作を経験させるよい機会であるので、安全かつ正確に化学実験を行う技能を身につけさせる。 ［エネルギー］日常生活との関連をはかりながら、電流と回路や静電気、電流の磁気作用などの実験を通して、電流の性質や正体、電流のはたらきについて理解させる。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範　囲 （予定）	第２回考査	「生命」生物の体のつくりとはたらき（問題集、実験・観察） 「物質」物質の成り立ちと表し方（問題集、実験・観察）
		第３回考査	「物質」化学変化と物質の質量 「エネルギー」電流の性質（問題集、実験・観察）
		第４回考査	「エネルギー」電流と磁界、放射線（問題集、実験・観察）
		年度末考査	「地球」地球の大気と天気の変化（問題集、実験・観察）
評価の観点・評価の方法	○評価の観点は、自然事象への理解と科学的に探究するための技能、科学的に探究するために必要な思考・判断・表現、主体的に自然の事象に関わる態度の３項目とする。 ○評価の方法は、学習のまとまりごとの記述内容と定期考査、授業への取り組みのようす、提出した課題の内容などをもとに、総合的に行う。また、自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス（予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など）	理科の学習は、自然の現象について学んでいく学問です。日常生活で身のまわりのことに対して、「なぜだろう」と考えながら注意して観ること、自分の意見を積極的に述べたり、友だちの意見にも耳を傾けながら現象について考えたりすることが必要です。 また、観察・実験を通して得られたことを図やグラフを描いて事実に合うように考察し発表する態度を身につけることも大切です。		

年 間 授 業 計 画 表

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	「生命」生物の体のつくりとはたらき	(43)	○生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていることや植物と動物の細胞のつくりの特徴を理解する。 ○植物の葉や茎、根のつくりについての観察を行い、それらのつくりと、光合成、呼吸、蒸散のはたらきに関する実験の結果とを関連づけて理解する。 ○消化や呼吸、血液の循環についての観察・実験を行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬しているしくみを観察・実験の結果と関連づけて理解する。また、不要となった物質を排出するしくみがあることを理解する。 ○動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、そのしくみを感覚器官、神経および運動器官のつくりと関連づけて理解する。
		単元導入、学ぶ前にトライ！	1	
		1章 生物の体をつくるもの	7	
	5	2章 植物の体のつくりとはたらき	12	
		3章 動物の体のつくりとはたらき	14	
		4章 動物の行動のしくみ	8	
	6	力だめし、学んだ後にリトライ！	1	
		植物と私たちを支える細胞壁		
後期		「物質」化学変化と原子・分子	(39)	○身のまわりの物質を分解する実験を行い、分解して生成した物質からもとの物質の成分が推定できることを見いだす。また、物質は原子や分子からできていることを認識する。 ○原子や分子は元素記号で表すことができることから、分子を化学式で示すことができるようになる。 ○2種類の物質が反応して結びつく実験を行い、反応前とは異なる物質が生成することを見いだす。また、さまざまな化学変化を原子や分子のモデルを用いて説明できるようになり、さらに化学反応式で表すことができるようになる。化学変化の学習では、酸化と還元が同時に起きていることを見いだし、それらが日常生活にも多く利用されていることに気づく。また、化学変化に伴う熱の出入りについても認識する。 ○化学変化に関係する物質の質量を測定する実験を行い、化学変化の前後では物質の質量の総和が等しいこと、および反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いだす。その際、実験で得られた結果をグラフ化するなど、実験結果の処理についての技能も習得する。
		単元導入、学ぶ前にトライ！	1	
	7	1章 物質の成り立ち	12	
		2章 物質の表し方	6	
		3章 さまざまな化学変化	11	
		《第2回考査》		
	8	4章 化学変化と物質の質量	8	
		力だめし、学んだ後にリトライ！	1	
	9	二酸化炭素を資源に変える人工光合成		
		※物質の結合		
	10	《第3回考査》		
	11			
後期		「エネルギー」電流の性質とその利用	(44)	○回路の基本的な性質や、電圧と電流との関係について規則性を見いだすとともに、実験機器の操作や実験結果の処理についての技能を習得する。 ○日常生活と関連づけながら静電気の性質について調べ、静電気と電流には関係があることを見いだし、真空放電の実験から、電流の正体について理解する。 ○日常生活と関連づけながら、電流の磁気作用や電流と磁界との相互作用を理解させ、直流と交流の違いを捉える。
		単元導入、学ぶ前にトライ！	1	
		1章 電流の性質	22	
		2章 電流の正体	9	
		3章 電流と磁界	11	
	12	力だめし、学んだ後にリトライ！	1	
		最先端の科学技術を支える超電導		
		※キルヒホッフの法則		
		※静電誘導と誘導分極		
		《第4回考査》		
		「地球」地球の大気と天気の変化	(30)	○地表にあるものすべてに大気圧がはたらいていることを理解させ、身のまわりの大気の存在を認識する。また、身のまわりの大気の状態を継続的に観測し、気象要素の変化と天気の変化の関係を見いだす。 ○霧や雲のでき方を、空気中の水の変化と関連づけて理解する。また、地球上の水がさまざまな状態で存在し、霧、雲、雨または雪はその循環の一部であることを認識する。 ○気圧配置によって、大気の動きが生じることを理解する。また、日本付近の高気圧や低気圧の移動と、それに伴う天気の変化を、地球規模の大気の動きの一部として捉える。 ○大陸と海洋の温度差によって生じる大気の動きが、日本の気象に影響を与えることを理解する。さらに、日本付近で盛衰する3つの気団と関連づけながら、日本の四季の天気の特徴とそれが生じる仕組みを理解する。
		単元導入、学ぶ前にトライ！	1	
	1	1章 地球をとり巻く大気のようす	5	
		2章 大気中の水の変化	7	
	2	3章 天気の変化と大気の動き	7	
		4章 大気の動きと日本の四季	9	
		《年度末考査》		
	3	力だめし、学んだ後にリトライ！	1	
		さまざまな気象観測の方法の開発と工夫		
			156	

教科名	年間授業時数	学年
音楽	39	2

授業形態	指導者名
前期：一斉授業　後期：一斉授業	長岡佐和

教科書（発行所）	中学生の音楽2・3上　（教育芸術社） 中学生の器楽　　（教育芸術社）
教科書以外の教材（発行所）	音楽のハーモニー2・3上（正進社）

目標	音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を養う。		
学習のねらい	1　歌唱 曲にふさわしい歌唱表現を工夫する。曲種に応じた発声により、美しい言葉の表現を工夫して歌う。 2　器楽 楽器の特徴を生かし、曲にふさわしい音色や奏法を工夫し表現する。 全体の響きに調和させて演奏する。 3　創作 楽器の特徴を生かした旋律を作り、表現する。 表現したいイメージや曲想を持ち、自由な発想による創作表現をする。 4　鑑賞 音と音との関わり合いや、速度や強弱の働きによって生み出される曲想の変化を感じ取る。音楽の背景となる文化・歴史や他の芸術との関わりも理解し聴く。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、音楽ノート、プリント等から出題します。	
	範囲（予定）	第1回考査	無し
		第２回考査	フーガト短調、夏の思い出、サンタルチア、リコーダーの奏法　等
		第3回考査	無し
		第4回考査	無し
		年度末考査	交響曲第５番、アイーダ、勧進帳、世界の音楽、荒城の月　等
評価の観点・評価の方法	・評価の観点は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の３観点とする。 ・具体的な評価は、普段の授業への取組（授業態度、授業プリントや音楽ノートの提出物等の記述内容、創作活動での作品やその過程での取り組み方　等）、定期考査、実技テストから総合的に行う。		
先生からアドバイス	・みなさんの身の回りには、たくさんの音や音楽であふれています。まずは、聞こえてくる音に耳を傾けてみましょう。そして、心地良いな、心が動かされるなと感じる音や音楽を見つけてみてください。 ・音楽の世界はとても広く、そして奥が深いです。様々な音楽に興味を持つこと、また、「音楽のしくみ」を知ることで、音楽とより楽しく、より豊かに関わることができます。音楽の授業にも、興味関心をもって、積極的に取り組んでみましょう。 ・音楽の授業は週１回です。１回１回の授業を大切にするためにも、準備物を忘れないようにしましょう。提出物も確実に出しましょう。		

年間授業計画表(45 分授業)				
学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	曲想と音楽の構造との関わりを理解して合唱しよう ・翼をください	3	パートの役割を理解して合唱する。
	5	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう ・フーガ ト短調 など	4	・旋律が重なり合っていくおもしろさを味わう。
	6	曲想と歌詞の内容との関わりを理解して、歌唱表現を工夫しよう ・夏の思い出 ・サンタルチア ＜第 2 回考査＞	4	・情景を思い浮かべながら、言葉を大切にして歌う。 ・曲想を生かして表情豊かに歌う。
	7	言葉の抑揚を生かして、創作表現を工夫しよう ・My Melody	4	・言葉の抑揚を生かして旋律をつくる。
	9	曲想と音楽の構造との関わりを理解して、その魅力を味わおう ・交響曲第 5 番	4	・曲の構成に注目しながら曲想の変化を味わう。
	5 ～ 3	リコーダーに親しもう ＊この題材は練習曲を継続して行う。		アルトリコーダーの基本的な奏法を身につけ正しいリズムと音程で簡単な楽曲を演奏する。
後期	10	オペラと歌舞伎に親しみ、それぞれの魅力を味わおう ・「アイーダ」より ・歌舞伎「勧進帳」	4	・オペラ、歌舞伎に親しみ、その音楽を味わう。
	11	日本の歌のよさや美しさを感じ取って、歌唱表現を工夫しよう ・やさしさに包まれたなら	3	・声部の関わり合いを理解して曲にふさわしい表現を工夫する。歌詞をよく読み、それぞれの思いを乗せて歌う。
	12	音色や音の重なり方、反復や変化の特徴を捉えて、リズムアンサンブルの表現を工夫しよう	3	・音の特徴や重なり方、構成を工夫してリズムアンサンブルをつくる。
	1	曲想と歌詞の内容との関わりを理解して、表現を工夫しよう ・「荒城の月」	2	・歌詞と旋律が生み出す雰囲気を味わいながら歌う。
		世界の様々な音楽の特徴を理解して、その魅力を味わおう ・世界の諸民族の音楽	2	・諸外国の様々な音楽の特徴とその特徴から生まれる多様性を理解し、音楽表現の共通性や固有性について考えて聴く。
	2	仲間とともに、表情豊かに歌おう （卒業式に向けて） ＜年度末考査＞	6	・歌詞のメッセージを読み取り、全体の響きに調和させて合唱する。
	3			
		総時間数	39	

教　科　名	年間授業時数	学年
美　　術	３９	２

授 業 形 態	指 導 者 名
一斉授業	森　邦生

教科書（発行所）	美術２・３上　学びの実感と深まり　（日本文教出版）
教科書以外の教材（発行所）	美術資料（秀学社）

目　　標	描く活動とつくる活動を通して、形や色をさらに追求し、創造的な工夫や調和した美しさを考えられる想像力を養い、自分らしい豊かな表現をおこなう。 また鑑賞と表現の能力を相互に高め、主体的に美術文化に対する見方や感じ方を深める。		
学習のねらい	１　絵画・彫刻などの活動を通して 対象を深く見つめ観察し、想像や感情など心の世界をスケッチし、形づくることを学ぶ。また形や色彩、光などが感情にもたらす効果を考え、より創造的に工夫した表現を行う。 ２　デザイン・工芸などの活動を通して 表現したり伝えたい内容を、用途やデザインの効果を考え、構成を工夫して創造的に表現する。また制作過程を順序立て、見通しを持って進める。 ３　鑑賞 日本及び諸外国の美術遺産を鑑賞し、その特質や文化や伝統などについての理解や見方を広げ、美術を通した国際理解を深め、表現活動に反映させる。		
定 期 考 査	出題方針	授業で制作した内容や配布プリント、教科書・美術資料から出題する。	
	範　囲 （予定）	第１回考査	なし
		第２回考査	鉛筆の技法、水墨画、色の属性と色相環による配色
		第３回考査	なし
		第４回考査	なし
		学年末考査	ピクトグラム、和菓子（粘土制作）、遠近法、実技問題
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は，造形的な知識及び技能の習得，創造的な思考･判断･表現の能力，創作活動に主体的に，また粘り強く取り組む態度の３項目とする。 ○準備物や授業での態度・真剣に創意工夫しようとする姿勢・見通しを持った創作活動など制作過程での観点別達成度，表現に適した道具の工夫と作品の出来映え，授業ワークシートによる鑑賞能力の３つのポイントを総括して評価する。		
先生からアドバイス	皆さんは昨年よりも成長し，観察眼や表現力が一段と増しています。昨年学んだことを応用して新しい題材や画材に挑戦します。表現の幅を一層広げていきましょう。 創作活動の中で，自分の個性をより強く感じながら，同時に他者の個性を感じ認めることで，より創作活動の喜びが感じられるでしょう。 美術（や音楽・文学）の世界は経済活動や効率主義とは全く違う価値観からできています。感性や創造力（想像力），表現力の発現の場です。「自分らしく表現」しながら，「より深まった表現」を追求します。それが美術，ひいては自分を取り巻く物事や世界を見る視点にもつながります。		

年　間　授　業　計　画　表（45 分授業）				
学期	月	学　習　内　容	時数	学習のポイント
前期	4	「立体感と空間をとらえて」（絵画） ・身近なモチーフを組み合わせたデッサン	3	・鉛筆による対象の形のとらえ方や陰影の表現の仕方を学び，描画材の特性を工夫して表す。 ・モチーフ同士の位置関係に着目し，空間の表現をおこなう。
	5	「墨が織りなす世界」（絵画・鑑賞） ・水墨画の世界と技法 ・自分らしい水墨画の制作	6	・水墨画の世界と作品に親しむ。 ・墨と筆の特性を実践を通して理解する。 ・身近なもの・ことを墨と筆の特性を生かして表現する。
	6	「色相の配色」（デザイン） ・色の属性の復習と色相環による配色 《第２回考査》	2	・色の属性，その組み合わせと効果を理解し，色相環を使った配色を実践しながら学ぶ。
	7	「情報をわかりやすく伝えよう」（デザイン） ・身の回りにあるマークとピクトグラム ・校内の掲示を想定したピクトグラムの制作	6	・身近なマークなどのデザインに目をむけ，日常生活におけるデザインの役割を知る。 ・伝えたい内容が見る人に分かりやすく簡潔に伝わるようなデザインを構想する。
	8			・形の簡略化の方法を学び，また色によって効果的に表せるよう工夫する。
	9	「季節を感じる和菓子をつくろう」（彫塑） ・和菓子制作と相互鑑賞	7	・日本の伝統的な和菓子と表現法を知る。 ・季節の風物からテーマを生み出し，樹脂粘土を生かした表現を工夫する。 ・制作の段取りと素材の特性を考え合わせ，見通しを持って制作する。
後期	10	「鑑賞課題」	2	・身の回りにある美術作品やデザインを鑑賞し，そのよさや生活の中の役割を理解する。
	11	「遠近法」（絵画・デザイン）	2	・様々な種類の遠近法を知り，それぞれの空間表現の違いを理解する。 ・一点透視図法，二点透視図法を実践する。
	12	「私の未来の部屋」（デザイン）	8	・自分の未来に住む部屋を想像して構成し，一点透視図法を活用して表現する。 ・自分らしい部屋のデザインを意識して構成・配色を考える。
	1			
	2	《年度末考査》		
	3	「２年のまとめ課題」（絵画）	3	・１年間に学習したことを活かして，まとめとなるような作品を制作する。
		総　時　間　数	39	